日本農業普及学会　令和５年度春季大会・総会開催要領素案

Ⅰ　期　日　　令和６年３月７日（木）～８日（金）

Ⅱ　開催方式　会場参加およびオンライン参加併用方式

　 (会場) 東京農業大学 世田谷キャンパス

　　　　　　　〒156-8502 　東京都世田谷区桜丘1-1-1

３月７日（木） 横井講堂（アカデミアセンター地階）

８日（金） 142教室（1号館１階）

Ⅲ　後　援　　東京農業大学国際食料情報学部（3/7シンポジウム）

Ⅳ　協　賛　　1口２万円で協賛団体、企業を募集。協賛団体、企業には、配付資料の広告掲載（A4判白黒1頁）を提供。

Ⅴ　日　程

３月７日（木）

受 付 １２：００～

　　　　　　（１２：１０～１２：５０　希望者には、キャンパス・ツァー）

開 会 １３：００～１３：１０

シンポジウム

　基調講演　　１３：１０～１４：１０（60分）

　趣旨説明　　１４：１０～１４：２０（10分）

　第１報告　　１４：２０～１４：４５（25分）

　第２報告　　１４：４５～１５：１０（25分）

　休憩 　１５：１０～１５：３０

　総合討論　　１５：３０～１７：００（60分）

懇親会　　　未定（詳細が決まり次第別途連絡）

３月８日（金）

受 付 　９：００～

研究発表会　　　９：１０～１１：５０

総会　　　　　１２：００～

閉 会　　　 １３：００

　理事会は、2月中にオンラインで別途開催。

Ⅵ　参加費

（１）資料代 会員　２，０００円

非会員　３，０００円（会場参加）

　　　　　　　　　　　　　　２，０００円（オンライン参加）

　　　　　　　　　　学生参加者は会員を含め無料

Ⅶ　大会参加・研究発表の申込み

（１）締め切り日

①大会参加申込み　　　令和６年２月２２日（木）

②研究発表申込み 令和６年１月２３日（火）

③研究発表原稿提出 令和６年２月２日（金）

（２）参加申込み方法

　　　『農業普及研究』第57号折り込み申込み用紙使用（FAX）

または電子メール（fukyugakkai@jadea.jp)

Ⅷ　シンポジウム（３月７日）

1 テーマ　農業における協働者のあるべき姿

　注：「協働者」とは、当事者（農業者と地域住民）と同じ目線を持ち、つかず離れずの関係で協働する者の総称。彼らはそれぞれ所属する組織のミッションを負って

　　　農村で活動しているが、「同じ目線を持ち（ビジョンの共有）、つかず離れずの関係（第三者的視点）で協働する」意志を持つ者であれば該当する。

2 背景と目的

　「農村は生産の場であるとともに生活の場である」とは、1999年の食料・農業・農村基本法の制定以前から言われてきていたことであるが、21世紀に入り農政の中に農村に関する施策が明確に位置づけられると、生産および生活の場としての農業・農村の多面的機能に対する注目度は高まり、それらをめぐる議論が活発化している。その一方で、農村の人口減少と高齢化は進行し、集落機能の維持・存続が危ぶまれる事態が発生している。

　そのような中で、これまでの農業・農村を支える仕組みへの信頼が揺らいでおり、課題解決に向けて、ソーシャルビジネスを標榜する事業体の台頭など農業・農村をめぐる協働者像の変化が顕著になりつつある。

　このような農業・農村をめぐる情勢が大きく変化している近年の状況を受けて、改めて協働者のそれぞれの役割を問い直し、参加者全体で課題を共有しつつ議論を行い、農業普及への理解を深めることを目的とする。

３　基調講演

　　農業における協働者の役割、そしてその悩み相談（仮称）

　　　佐川　友彦（ファームサイド株式会社　代表取締役）

４　シンポジウムの趣旨説明

　内山　智裕（東京農業大学国際食料情報学部　教授）

５　報告

　第１報告

　　　油谷百合子（茨城県県南農林事務所つくば地域農業改良普及センター）

第２報告

　　　山端　直人（兵庫県立大学自然・環境科学研究所　教授）

６　パネルディスカッション

　進行　内山　智裕（座長）

　　　　油谷百合子（第1報告者）（案）

山端　直人（第２報告者）（案）

　　　　佐川　友彦（基調講演者）

　　　　山中　　聡（コメンテーター　クロップ マネジメント ラボ代表）

７　シンポジウムの進め方

　　基調講演のあと、シンポジウムの趣旨説明、各報告を行い、休憩を挟んでパネルディスカッション、引き続いて総合討論を行う。

1. 基調講演

　　農業分野の人材育成に関する幅広い活動に取り組む中で、協働者に求められている

役割についてどのように認識しているのか、また、その活動の中で接するそれぞれの

協働者の課題について、どのようにとらえられているのか忌憚のないお話しを期待す

る。

（２）シンポジウムの趣旨説明

　　シンポジウムのねらいと分科会への期待について述べていただく。

（３）第１報告の論点

　　日々の普及活動の中で、公的組織に属する者として協働者の役割をどのように認識し活動しているのか、そして、悩みは何か、具体的に報告いただく。

（４）第２報告の論点

　　かつて普及指導員であったときの経験を踏まえつつ、立場を変えて農業・農村と

　の協働者であり続けている自己を振りかえり、協働者の意義と、それへの期待を報告

いただく。

（５）総合討論の論点

　　座長の進行により、基調講演および報告を受けて、まずコメンテーターから自らの

協働者としての経験を踏まえ、基調講演者およびそれぞれの報告者への感想と

問いかけをしていただき、それらも含めて、会場参加者も交えて、議論を深める。

　　最後に、議論された論点の確認を行い、全参加者で課題を共有する。

Ⅸ　研究会発表

１　座 長 　　普及学会員から２名

２　発表課題数　　　　　８課題まで（先着順）

　　　　　　　　　　　　８課題を超える場合には、９番目以降の課題は大会資料『農

業普及の研究と実践』誌上発表になります。ご了承下さい。

３　１課題の発表時間 ２０分（発表１５分、質疑５分）